（様式1）　　令和　5　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0570207779		
法人名	有限会社せせらぎ		
事業所名	グループホームせせらぎ（せせらぎ棟）		
所在地	秋田県能代市落合字下谷地251－6		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和5年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

能代市落合自治会に加入し清掃活動、子供会の七夕来訪など地域とのつながりを大切にしています。
また関連施設合同のレクリエーション開催により家族、地域住民との交流をしています。
運営推進会議の老人クラブ、自治会長の参加により透明性のある明るく安心した福祉サービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

人手不足の介護現場では同性介助が行えるよう、課題を見い出し解決策を講じているものの、同性介助の継続的な実行が難しい現状の中、同性介助を行うために人員配置や職員のシフト調整を行い、男性スタッフと女性スタッフの業務分担の細分化を図る等工夫している。「ここは笑いがとりえ」との利用者の言葉の通り、スタッフも明るい。十二湖・大館の七滝・八森の観光市・能代公園等々、コロナ禍でもドライブを兼ねて出かけ楽しめるよう取り組んでいる。新興住宅地にもかかわらず、団地内の老人会や町内会等に無理なく溶け込んでいる。夕暮れが深まり灯籠の灯りが映える時刻となり、太鼓と笛が響き渡る中、子供七夕の灯籠が曳き回され、ホーム前でも披露されたとのこと。「家族の話をよく聞いてくれる。」「何かあるとすぐ電話連絡してくれ、とても安心している。」等々、家族から感謝されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：19,20）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：19）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：41）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
53	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9,15）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,16）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
57	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を玄関に掲げ職員全員意識し実践につなげている。	「ケアサービスを通じて、皆の生活を豊かにしていく。」との企業理念を踏まえ、毎年度当初に、各スタッフに様式を配布し、せせらぎ棟・はまなす棟としての独自の簡潔で分かり易い理念を作成しており、企業理念と共にホーム内の誰からでも見やすい位置に掲げられている。今までの処遇をスタッフ各自が振り返り、今後どのように対応するかを明瞭に表現したホームの理念である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており清掃活動に参加している。子供七夕の行事にも声をかけてもらうなど老人クラブや近隣の方々とも顔なじみである。	年2回の団地の草取りにはスタッフが参加している。隣接するショートステイでの団地住民との交流会では、地域の老人会メンバーが踊りを披露してくれる等、新興住宅地にもかかわらず、団地内の老人会や町内会等に無理なく溶け込んでいる。灯籠を頭にのせたこどもたちを先頭に、太鼓、笛に続いて、アニメキャラクターなどをかたどった灯籠が曳かれる「こども七夕」。夕暮れが深まり灯籠の灯りが映える時刻となり、太鼓と笛が響き渡る中、灯籠が曳き回され、ホーム前でも披露されたとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	自治会長、老人クラブ会長の運営推進会議への参加交流などにより話し合いを持ち通して地域の人々に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況、入居者の状況、研修報告などを伝え、参加者から出た意見を参考にしサービス向上に活かしている。	自治会長、地域住民代表者、市長寿生きがい課担当者が参加する運営推進会議が2ケ月に一度せせらぎ棟ホールで開催されている。市の担当職員は毎月欠かさず参加してくれている。行事の様子等を写真を交えながら紹介している。事故報告やヒヤリ・ハットについても、取り上げられている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者が参加していただいている。 相談事項があれば積極的に後で出向き指導を受けサービス向上に努めている。	運営推進会議の前後の時間を利用し、市の担当者と連絡調整する機会を活用している。ヒヤリ・ハットについて、運営推進会議に資料として文書で紹介するようアドバイスをいただいたとのこと。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会を設置し、全職員が委員となり研修で話し合い、見過ごされることがないよう努めている。玄関にセンサーを取り付けており施錠をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が3ケ月に1度開催され、職員会議で全利用者の状況がチェックされている。動画研修サービス（E care labo）を導入しており、研修カリキュラムを職員に周知し、職員が個別にタブレット等で動画視聴することも可能にしている。身体拘束排除や虐待防止に関するマニュアルも確認できた。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は必要性を認識、研修で学習している。また社会福祉協議会でやっている、日常生活自立支援事業は場合により関係者と話し合い取り入れしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する時には利用者や家族などに解約内容を再度説明している。不安や疑問点を聞かれた時には十分な説明を行い理解、納得を図るよう努めている。改定がある場合は文書にて改定箇所を説明している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	玄関に苦情処理箱を設置している。要望、意見があった場合職員会議で話し合い運営に反映させている。家族会、運営推進会議への参加で外部者へ表せる機会を設け運営に反映させる。	毎月請求書と一緒に、行事に参加している各利用者の写真や身体状況等の近況報告を、各家族に郵送しており、必要に応じ電話連絡も活用している。十二湖までのドライブを楽しむことが出来たこと等、ホームへの感謝の言葉が寄せられている。「コロナ禍で外出が制限される中、ホーム内で様々工夫し、部屋に閉じこもることの無いようにしてくれたり、いつ訪問しても、本人の整容が清潔に保たれている。」「家族の話をよく聞いてくれる。」「何かあるとすぐ電話連絡してくれ、とても安心している。」等々、家族から感謝されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月の職員会議において運営や職場環境、職員育成等の意見や提案などを聞いている。管理者会議において伝え情報を共有し利用者のサービス向上に努めている。	業務の順番の工夫や働き方への要望、利用者への個別の接し方等々、主に職員会議でスタッフの提案を聞く機会を設け、反映につなげている。必要に応じ、専務との個別面談も実施している。「日中活動と睡眠の関係」について、その重要性をスタッフが認識し実践につなげている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で交流する機会があり情報交換などしサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に安心して過ごして頂けるよう、職員で情報を共有し寄り添い、不安や要望に耳を傾けている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族との話し合いで、不安や要望などに耳を傾け信頼関係を築いている。気軽に相談できるような関係作りに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる事を見つけ職員と一緒に行っている。終わった後は労いの言葉をかけ対応、支え合う関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を頻回とし一緒に本人を支える関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの美容院などへの外出し関係が途切れないよう支援に努めている。	お盆に2泊3日で帰省されたり、知り合いの美容院が送迎までしてくれたりしている。コロナ禍には、面会を家族のみに制限した時期もあり、窓越しに声が聞こえる機材を導入している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しており孤立せず関わり合いを持つよう職員が中に入って支え合うよう支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約）が終了しても介護などの相談に応じており関係を断ち切らないようにしている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活リズム、習慣を把握するよう努めている。集団生活の中でも利用者本位になるようサービス提供に努めている。	食器拭き、洗濯物たたみを手伝う方、刺し子や編み物の道具を持ち込んで楽しむ方、好きな歌手のCDを聞きたくて、スタッフにホールのCDプレーヤー操作を頼む方。当日の昼のメニューのだまこを丸める方等、利用者は思い思いの時間を過ごしていた。ベランダの干し柿は、紐結びを利用者が手伝ってくれたとのこと。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族から今までの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがいなどを聞き把握することに努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	利用者や家族からの意見、要望等を職員会議やカンファレンスで話し合い、意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	来所時や電話等で,機会ある毎に家族からの要望等を聞き取るように努めている。スタッフが利用者一人ひとりから聞き取るスタイルのアンケートを定期的に実施しており、毎月のカンファレンスで共有し、計画に反映出来るよう取り組んでいる。個々の表情や仕草等から些細なことも把握し、日常の暮らしに反映出来るよう努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスの際に話し合われた意見やアイデアを参考にしながらモニタリングし課題の見直しを行い介護計画を作成している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供、老人会、自治会、民生委員、介護実習生の受け入れなどで地域資源を活用し支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医の説明を行い、希望に応じた病院を付き添い受診している。かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局などの事業所の関与などは良好で適切な医療を受けられるようにしている。	入居前の医療機関が遠すぎる等の事由により、ホームの協力医に変更した事例があったが、入居前のかかりつけ医を継続して利用することを基本としている。訪問歯科が利用できる。ホームのかかりつけ薬局を利用してもらうことで、一包化や配達、気軽にアドバイスを受けることが出来ている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションと医療連携体制を取っている。月２回の訪問時には日常的に気付いたことを報告、特変があった場合は早めに相談し受診も考えた健康管理の支援をしている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した時は医療連携室担当者、担当看護師及び家族との関係を密にし情報交換や相談に応じて安心して治療ができるよう支援している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については早い段階から本人や家族などと話し合っている。そのことは職員全体で方針を共有し地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	協力医が往診できない現状ではあるが、家族より協力出来る医師の指定があれば、看取りに向けた協力を行う方針である。過去に１ケースの看取りの経験を有する。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え職員は救急救命を受講している。定期的に確認を行って実践につなげている。またマニュアルもすぐ傍に備え付けている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を毎年実施し、避難方法を全職員が確認している。避難場所は事業所の関連敷地が広く確保され、地域住民の一員として、協力が得られるように努めている。また発電機、ハザードマップも見える所に準備している。	徒歩10分の距離に落合浜があり、水害の可能性の高い地域とのことで、水害発生時の避難体制には特に留意している。水害発生時の避難場所を小学校としているが、場合によっては避難にリヤカーを使用する効果性についてアドバイスをいただいたとのこと。2024年3月末から義務付けられるBCP「事業継続力強化計画」については、策定に向け検討中とのこと。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけや雰囲気づくりに努め安心、安全な環境を提供している。	真向からの否定はせずに、傾聴することを基本として納得していただけるよう努めている。利用者はさん付けで呼ぶよう徹底している。標準語よりも方言の方が伝わる場合は、あえて方言で話すよう心がけている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に意見も聞きながら利用者の好みや季節に合わせた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができる範囲内で職員と一緒に準備や片付けを行っている。また誕生日に希望を取り入れメニューを作成している。	調理専門のスタッフが配置されている。地域では有名な老舗の菓子を提供すると、利用者からとても喜ばれるとのこと。誕生日にはリクエストメニューを作っている。行事でのちらし寿司やだまこが人気メニューとのこと。利用者の希望に応えて、急遽刺身を買いに出かけることもある。ひなまつりには、団地の方から提供されたひな壇を飾り、雛あられを食したり、節分には豆まき後に、豆に舌鼓を打ったりしている。当日の昼は、特産の「じゅんさい」に「だまこ」をいただいた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態に努め、力量、習慣に応じた量や形態を提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔保持のため、毎食後一人ひとりの状態に合わせ声かけ見守りにより支援している。夕食後は毎日入れ歯洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握している。声かけでトイレ誘導することによりオムツに頼らない自立に向けた支援を行っている。	チェック表により個別の傾向やパターンを把握し、声かけ誘導につなげている。各ユニットに男性が3名配置されており、同性介助の原則を踏まえ、同性介助を行うために人員配置や職員のシフト調整を行い、年齢や、やさしさ・目線に配慮し、男性スタッフと女性スタッフの業務分担の細分化を図る等工夫している。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘原因や及ぼす原因をよく理解し飲食物、水分補給や適度な運動を行っている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や希望、状況に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	利用者一人ひとりの希望やタイミングやその日の状態に合わせて入浴できるよう配慮している。人手不足の介護現場では同性介助が行えるよう、課題を見い出し、解決策を講じているものの、同性介助の継続的な実行が困難が事例もある。排泄介助同様に、同性介助の原則を踏まえ、同性介助を行うために人員配置や職員のシフト調整を行い、男性スタッフと女性スタッフの業務分担の細分化を図る等工夫している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとり生活習慣や日々の状況に応じて安心して気持ちよく休息したり眠れるようかかりつけ医と相談しながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成しており、薬の目的や副作用について理解している。また変更があった場合には速やかに周知し薬剤師の説明も取り入れる。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる範囲内で役割を持っていただき生活歴や経験を生かせるよう支援している。水分補給には本人が好む物を飲めるようにしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、他施設訪問、買い物などに誘ったりと戸外に出かける機会を多く持てるよう支援している。	十二湖・大館の七滝・八森の観光市や能代公園等へドライブを兼ねて出かけたり、買い物のついでにドライブしたりなど、コロナ禍であっても外出を楽しめるように取り組んでいる。車道は比較的通行量が少なく、広い敷地内で散歩を楽しんでいる。	外出支援に積極的に努めており、今後とも出かけられるよう継続して取り組むよう期待します。
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つ大切さは理解しているが家族の希望で利用者には持たせておらずホームで管理している。その中の一部を本人が持参し職員同伴で買い物に出かけている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には利用者と職員が一緒に作成した季節感が味わえる飾り物を貼り、行事の写真も貼っている。共有空間は掃除、消毒を行い不快がなく居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	開設時に利用者がくつろげるようにと、整備された日本庭園をホールや廊下から眺めることが出来る。その立派な松や庭石はまるで老舗旅館の庭を思わせる程である。広いベランダには干し柿が吊るされていた。各共用スペース共、とても清潔で整理整頓されている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には利用者同士が思いおもいに過ごせるようソファーがありテレビを見せたり新聞を読んだりしながら自由に過ごせるよう居場所の工夫をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅中に使用していた馴染みの物を使用している。利用者個々の認知状況、ADLに合わせた居室作りになっている。	ベッドと箪笥が備えつけられている。せせらぎ棟の各居室のタンスはとてもアンティークで、昭和そのもの。各居室にエアコンが取付られ、夏は落合浜からの海風が涼しさを誘うとのこと。どの居室も掃除が行き届いている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が毎日安全に生き生き生活できるよう床がバリアフリー仕様、ホール・廊下・トイレ・浴室に手すりが設置されている。		